

三度目の総選挙、連立政権はまたも不調か

江崎智絵

防衛大学校准教授

えざき ちえ 筑波大学大学院国際政治経済学研究所単位取得満期退学

博士(国際政治経済学)。専門は中東現代政治。在ヨルダン日本大使館専門調査員、中東調査会研究員を経て二〇二二年より現職。

トランプ政権の新中東和平案でリクードが伸長するも

「青と白」はネタニヤフ追い落としにかかる。
はたして四度目の選挙は回避できるか。

三月二日、イスラエルで第二期クネセト総選挙が実施された。二〇一八年二月末にクネセト(国会)が解散されて三度目の選挙となるが、一九年四月と九月の選挙を経ても新内閣が発足できずにいた。首班指名を受けた人物が過半数を維持もしくは確保できないからだ。

こうして、今次選挙にも前回から続く内政上の対立軸が持ち越された。最も際立っていたのは、一九年一月二二日に三件の汚職疑惑で正式に起訴されたベンヤミン・ネタニヤフ首相の再選を目指す陣営と、「反ネタニヤフ」を掲げる陣営の対立であった。前者はネタニヤフ率いるリクードを筆頭とする右派・宗教政党を、後者はユダヤ系の中道・左派政党およびアラブ系の政党をそれぞれ指す。

中央選挙管理委員会が三月五日に発表した暫定結果によ

ると、投票率は先の選挙よりも高く、七一%を上回った。一方、今回の選挙でクネセトに議席を獲得した政党・政党連合の八つという数は、多党乱立の傾向が強いクネセトにおいて最も少ないとされる。過去二回の選挙結果を振り返ると、その数は一九年四月に一一、同九月に九となっていた。ゆえに今回は、いくつかの政党・政党連合において集票力が高まった。そのひとつがリクードである。

リクードは、先の選挙から四議席増加させて第一党の座に帰り咲くとともに、一九年四月以降の選挙で最大の議席数を獲得した。ネタニヤフへの起訴確定後に始まった選挙活動では、当初、リクード最大の競合相手である「青と白」の優勢が伝えられていた。しかし、一月二八日に米国のトランプ政権が新中東和平案を発表したことがリクードの挽

表 第23期クネセト総選挙結果

順位	政党名	獲得議席数
1	リクード	36
2	青と白	33
3	ジョイント・リスト	15
4	シャス	9
5	UTJ	7
5	イスラエル・ベイテヌ	7
5	労働党・ゲシエル・メレツ	7
8	ヤミーナ	6

(出典) 各種報道より筆者作成

回に結びついたとみられている。この和平案は、西岸在住イスラエル人の九七%をイスラエル領に吸収するとしている。実質的に、入植地のほとんどをイスラエルが合併するということで、西岸の入植者によるリクード支持を高めることに寄与したとされる。

ただし、リクードを筆頭とする右派・宗教政党全体の獲得議席数は五八(リクード三六、シャス九、UTJ七、ヤミーナ六)と、過半数を下回った。このことは、青と白を筆頭に中道・左派政党を中心とする反ネタニヤフ陣営が過半数を保有する可能性を示唆している。青と白自身は、先の選挙と同じ議席数を維持しながらも二位に転落し、伸び悩んだ感が否めない。実際、重要な支持基盤の一部が今次選挙

ではリクードに流れたとされる。そのため青と白の指導部は、四度目の選挙を戦い抜くことはできないと認識し、ネタニヤフの政権運営に終止符を打つ動きを加速させている。ひとつは、

起訴された人物が首相を務めることを禁止する法案の作成である。そのほか、イスラエル・ベイテヌおよびアラブ系四政党からなるジョイント・リストとの連立協議が開始された。ガンツは、イスラエル・ベイテヌが連立への参加要件として提示した神学生への徴兵法案の採択などを、最低限であれば受け入れるとしたようである。

ただし、全六二議席からなる連立政権が発足する可能性は低い。反ネタニヤフの立場を共有するとはいえ、ユダヤ系諸政党の間には、ユダヤ人のみによる政権樹立に固執する議員も少なくない。アラブ系政党の一部は、これに強く反発している。また、ガンツが首相となった場合でも、中東和平をめぐる領土的な譲歩は言うに及ばず、パレスチナ国家の樹立も実現されないとみられている。ゆえに反ネタニヤフ陣営にとってより現実的なシナリオは、青と白率いるユダヤ系諸政党のみの連立政権をジョイント・リストが閣外から支持する、というものだ。だが、新型コロナウイルスへの感染拡大を受け、ガンツがネタニヤフと挙国一致内閣の樹立を協議する可能性が浮上してきている。

いずれにせよ、再選挙の実施はネタニヤフを利することになりかねない。ゆえに、この点に対する反ネタニヤフ陣営の危機感の高さが今後の政局を左右するといえよう。●